

令和6年度 南安曇農業高等学校 学校教育目標・学校評価項目

◎教育目標

勉学・健康・品位の向上を図り、健康で教養豊かな科学的農業人を育てる。

◎重点目標(中・長期的目標)

食料・環境・生命に関する教育を通して豊かな人間性と生きる力を育み、地域産業や地域文化の継承を担う人材を育てる。また、地域と連携して開かれた学校づくりを進め、安全で安心して学べる学校づくりに努める。

○本年度の重点目標

1 地域連携（評価項目：開かれた学校づくり）-----

地域と連携した教育活動および高大連携事業の再開・充実を図るとともに、本校教育活動の地域や保護者への広報活動を充実し開かれた学校づくりを進める。

評価の観点

- ① 各教科の授業や農業クラブの研究部活動での地域連携の精選と充実を図る。
- ② 松本大学との連携によるマーケティング教育を農業教育の中へ位置付ける。
- ③ 安曇野市との官学連携において、具体的な内容の検討と実施を図る。
- ④ 学校 WEB ページによる地域や中学向けの情報発信を有効に活用する。
- ⑤ 南農の発展に向けて、地域人材や同窓会との連携を図る。

2 安全・安心な学校（評価項目：生徒指導・生徒支援・いじめや体罰の無い学校）-----

すべての生徒が安心して学習活動に取り組み、学ぶ喜びと充実感を得られるように生徒指導・生徒支援の充実をはかる。

評価の観点

- ① よりよい生徒理解のため、情報を共有するための組織作りと職員会での情報共有を行う。
- ② いじめや生徒間トラブル、問題行動の未然防止につとめるとともに、問題の早期発見と解決の指導を行う。
- ③ 教育相談体制を充実し、生徒・保護者への周知を積極的に行う。
- ④ 生活アンケートやアセスを実施し生徒の状況を適切に把握する。
- ⑤ スマートフォンやインターネットへの関わり方について指導し、ネット上でのトラブルやいじめがないように図るとともに、問題を早期発見し拡大しないよう予防教育に努める。
- ⑥ 生徒会と連携し、スマートフォン等の使用について生徒自身が使い方について考える取り組みを行う。
- ⑦ 様々な行事を通して、クラスや学年での生徒間のコミュニケーション活性化を図る。

3 学力の向上（評価項目：学習指導）-----

すべての生徒が『分かった』と感じ、学ぶ喜びと充実感を得られるように授業内容の充実をはかる

とともに、専門科では学科・コースごとの特性を生かした授業・研究活動を追求する。

評価の観点

- ① 授業アンケートを生かして授業改善を実施する。多くの生徒が「よい（よく分かる）」「たいへんよい（たいへんよく分かる）」と感じられるように努力する。
- ② 基礎的・基本的な学力の向上のため、各教科にて課題を出し家庭学習の習慣付けのための工夫をする。
- ③ 課題研究やプロジェクト研究等、探究的な学習への主体的な取り組みを通して、総合的な学力の向上に繋げる。
- ④ グリーンサイエンス科では、栽培・管理・栽培物の活用に関する基礎的知識・技術を習得させるとともに、交流学习や販売実習等の実践的な体験活動を通じて協働的な学習や言語活動の充実を図り、「コミュニケーション力」「企画力」「指導力」等、総合的な学力の向上を図る。
- ⑤ 生物工学科では、植物・動物・微生物に関する基礎的知識・技術を習得させるとともに、実験・実習及び研究活動を通して、地域に根ざした「探究的な学び」である「あづみの学」を活用した地域資源を有効に活用する課題解決型学習の展開を図り、総合的な学力の向上を図る。
- ⑥ 環境クリエイト科では、測量設計・土木施工・造園などの基礎的知識・技術を習得させるとともに、産学官連携の充実を図り、専門的技能（資格取得等）の学習を通して、専門力と創造力を必要とする探究的な学びを実践する等、総合的な学力の向上を図る。

4 キャリア教育の充実（評価項目：キャリア教育・進路指導）-----

地域農業や関連産業への理解を深め、生徒の将来を見据えた3年間の繋がりのあるキャリア教育を作り上げるとともに、卒業時に希望の進学・就職ができるように進路指導の充実を図る。

評価の観点

- ① 就職・進学指導体制の充実を図るための研究、情報収集を継続する。
- ② 「キャリアウィーク」が更に有効な取り組みとなるよう内容を検討し実施する。
- ③ 生徒の多岐にわたる進路希望の実現のため、個別指導の充実を図る。
- ④ 資格取得に取り組む学習環境を整え、多くの生徒が合格できるように支援を行う。
- ⑤ 塾への生徒の参加を促し、それぞれの進路実現に向けた学力の向上を図る。また、1・2年生の積極的な参加を促す。
- ⑥ 大学進学希望者について、様々な機会を活用し学年・クラス担任と連携して早い時期からの意識づくりを行う。

＊ 評価方法は学校評価表により自己評価をする。

＊ 評価を確かなものにするために保護者による学校評価アンケート、生徒による授業アンケート・生活アンケートを実施し参考とする。

＊ 評価結果を学校関係者（学校評議員・PTA役員）に示し、学校関係者評価を受け学校経営の改善に生かす。